

排水溝の点検と生育の状況を確認しましょう!

1. 気象および麦の生育状況

1月から2月に積雪がありましたが、現在の生育は平年並となっています。融雪後の排水ができていないか溝の点検や補修をし、湿害を防ぎましょう。また、播種時期により生育の差があるため、ほ場の生育に応じた管理が必要です。

2. 収量確保に向けた管理

(1) 排水対策

排水不良による湿害は、収量・品質の低下を招きます。明渠に滞水している場合は溝さらえ等を行い、速やかに排水しましょう。



排水溝がふさがっており、溝さらえが必要

(2) 施肥(大麦・小麦共通)

全量基肥施用の場合

茎数が十分確保できている(茎数 400 本/㎡以上)ほ場では、追肥の必要はありません。

ただし、分けつ不足(茎数 400 本/㎡未満)の場合は、2月中～下旬に窒素成分で 1.5～2kg/10a 程度追肥してください。

茎数 400 本/㎡以上の
大麦ほ場(例)



追肥不要

茎数 400 本/㎡未満の目安

大麦

小麦



2月中～下旬に 1.5～2kgN/10a 追肥

分施体系の場合

例年並(2月下旬～3月上旬)に窒素成分で 3～4kg/10a 程度実施しましょう。